

世界 YMCA/YWCA 合同祈禱週

2022.11.13-19



IGNITE: PRAYING THE IMPACT

運動の拡がりに火をともし — 祈りによって



目次

世界 YWCA 会長、世界 YMCA 会長からのメッセージ	1
はじめに	2
第 1 日目 Impacting Change 変革をもたらすために	3
第 2 日目 Impacting Wholeness 全人的成長を求めて	7
第 3 日目 Impacting Hope 希望をもたらすために	14
第 4 日目 Impacting Responsibility 責任をもって	19
第 5 日目 Impacting Dignity 尊厳を求めて	24
第 6 日目 Impacting Unity 一つとなるために	28
第 7 日目 礼拝	34
聖書日課 2022 年 - 2023 年	38

世界 YWCA 会長および世界 YMCA 会長からのメッセージ

この2年間、世界のYMCAとYWCAは、新型コロナウイルスの世界的大流行により、いくつかの危機的な課題に直面しました。私たちの多くは、この2年間に起こった前代未聞かつ未だに収束しない出来事を振り返りながら、苦慮しています。私たちは、自身が今どこにいるのか、どこに向かっているのか、私たちの揺るぎない信念とは何かについて考え続けている段階にあります。

2020年の合同祈禱週間で私たちは、自分自身とコミュニティのために、レジリエンス（回復力）を高めるための希望の光を求めて歩み始めました。これは、個人にとっても、また信仰による世代を超えた運動としても、再発見と精神的成長をもたらす機会となりました。2021年の合同祈禱週間で私たちは、課題を克服するための再生と回復のプロセスを経験しながら学びを深めていきました。私たちは、パンデミックの影響により散り散りになってしまいましたが、同時にこれは私たちの変革の歩みの一つとしてチャレンジすべき課題であることを受け入れ、繋がり続けることを確認しました。私たちYMCA/YWCAのどちらの運動も、暴力や戦争の無い、より自由で良い世界を作るという明確なビジョンと目標を持っています。このビジョンに基づき、私たちは希望と熱意をもって、地域社会のための働きを続けています。

今年の合同祈禱週を迎えるにあたり、私たちは心を一にすることでより強くなり、世界に良い影響を与えることができると信じて前進を続けています。世界YMCAは2022年7月に第20回世界YMCA大会を開催し、世界中から参加者が集い、新たな活力を得て、私たちの活動に火を灯しました。世界YWCAも同様の思いをもって、2023年の世界総会を準備しています。

Ignite: Praying the Impact（運動の拡がりに火をともし一祈りによって）が今年の合同祈禱週のテーマです。このテーマは、世界YMCAの長期計画「Vision 2030」と世界YWCAの「Goal 2035」に沿ったものです。これは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に基づき、祈りを持って行動し、共創のプロセスを受け入れ、過去から学び、力強く献身的に、レジリエンスをもって団結することを呼びかけています。私たちは、「全人」「希望」「責任」「尊厳」という価値を選び、心を合わせて祈り、世界中のコミュニティで永続的な影響（Impact）をもたらすため、一つになって変革に取り組むことが必要です。

私たちは、この祈りの週に、世界中のYMCA-YWCAに連なる人々が私たちの生活と地域社会にポジティブな影響（インパクト）を及ぼすために祈ることを呼びかけます。

私たちは、全能の神が、人々に奉仕し豊かな生活をもたらすために尽力しているYMCA・YWCAに変わらぬ祝福を与えてくださっていることを感謝します。

私たちはまた、戦争、暴力、不正の中であって、厳しい苦しみと苦難にさらされている人々のために祈ります。

私たちは、最も困難な状況にある人々のために心を尽くして組織的に活動することを通して、神の愛の証人となりましょう。

私たちは、変革のために祈り、働きかけましょう。

そして、世界中の地域社会にポジティブな影響（インパクト）を及ぼすために、Ignited（火をともし存在）であり続けましょう。

世界YWCA会長 ミラ・リゼック | 世界YMCA会長 ソヘイラ・ハイエック

はじめに

世界合同祈禱週間への参加の呼びかけ

世界 YWCA と世界 YMCA は、1904 年以来、協力して世界合同祈禱週間を開催しています。今年は、2022 年 11 月 13 日から 19 日に開催されます。

参加者は、個人で参加することもできますし、小グループを作って一緒に毎日短いディボーション（礼拝）を行うこともできます。この 1 週間の活動は、6 つの毎日の祈り（ディボーション）と、7 日目の礼拝(worship)で構成されています。

この冊子の使い方

●1 日目から 6 日目

それぞれ 6 日間のディボーションには、聖書朗読、導入のメッセージ、聖書のメッセージとその応用・適用、ふりかえりや考察のポイント、そして祝福の祈りが盛り込まれています。また、もし時間があれば創造的な行動や活動もあります。

もしあなたがグループのリーダーであるなら、事前にブックレットに目を通し、祈り、準備する時間とってください。聖書箇所や祈りの朗読の役割について、グループのさまざまなメンバーに事前に依頼しておくとい良いでしょう。

●7 日目

YWCA/YMCA の中には、礼拝で一週間を締めくくるところもあります。このブックレットでは、あなたが自分の地域で独自の礼拝を行うためのプログラムの例を提供しています。

この冊子の最後の部分に、2023 年の「聖書日課」を掲載しました。一年を通しての聖書通読にお役立ていただけることを願っています。

皆さんの YMCA/YWCA での礼拝の様子をシェアしてください

この 1 週間の合同祈禱週とその準備期間では、あなたの礼拝の計画や証（礼拝でのメッセージ）について、もしくは礼拝において個人・グループで考えたことや経験したことについて、「#WWOP22」のハッシュタグをつけて SNS に投稿してみてください。

DAY 1



IMPACTING CHANGE

CLAUDIA KUHN

変革をもたらすために



第1日 – Impacting Change 変革をもたらすために

聖書：マタイによる福音書 5章 13-16節 & エレミヤ書 29章 4-7節（新共同訳）

マタイによる福音書 5章 13-16節 (地の塩、世の光)

13: 「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。

14: あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。15: また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。16: そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

エレミヤ書 29章 4-7節

4: 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしは、エルサレムからバビロンへ捕囚として送ったすべての者に告げる。5: 家を建てて住み、園に果樹を植えてその実を食べなさい。6: 妻をめとり、息子、娘をもうけ、息子には嫁をとり、娘は嫁がせて、息子、娘を産ませるように。そちらで人口を増やし、減らしてはならない。7: わたしが、あなたたちを捕囚として送った町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があつてこそ、あなたたちにも平安があるのだから。

はじめに

ある夜、私は故郷の街を歩いていると、ふと何かが変わったことに気がつきました。何が変わったのか、理解するのに少し時間がかかりました。いつもなら、夜に歩いている橋の上を通ると、丘の上にある古い城塞じょうさいがライトアップされているのが見えました。しかし、その夜は灯りがついていませんでした。冬を越すための節電のため、秋には電力の使用を控えなければなりません。そのため、古い城塞のような観光スポットは、従来のようにライトアップされなくなりました。私は、エネルギーや電気の節約の必要性自体には賛成しています。しかし、あの日、ライトアップされていない古い城塞に、私は何か物足りなさを感じていました。このライトアップされた古い城塞は、私にとってある種の礎のような存在になっていました。街を歩けば、必ずと言っていいほどあの城が目に見えなくなりました。しかし、今はもうそうではありません。



聖書の語りかけ

今日の聖句は、イエスがガリラヤで弟子たちと群衆に語りかけた「山上の垂訓」の一部です。この説教は、神の国における人々の生き方とはどんなものであるかを示しています。イエスは塩と光という比喩を使って、弟子たちと群衆に、神の祝福を伝える者となるため、そしてそのための共同体を築く者となるための、一人ひとりの召命（役割）の意義と中身について教えています。

イエスの時代、塩は非常に高価なものでした。ローマ皇帝シーザーは、兵士に給料として塩を与えていました。イエスは、あなたがたは地の塩であるという比喩で、二つのことを示唆していると思われます。第一に、塩は防腐剤であること、第二に、塩は味を加えるものであるということです。

イエスの弟子たちと群衆は、塩であると同時に光となるように遣わされました。

イエスの時代、人々は家の中で油のランプを使っていました。油は決して安いものではなかったので、大切に使われました。そこで、イエスの時代の丘の上の町を想像してみましょ。すべての家で油のランプが灯され、それが窓際に置かれていたと想像してみましょ。そうすると、この街はとても明るくなります。この街は、まさに他の人たちの前に光を放つ街となるのです。

イエスがこの世で弟子たちに期待しているのは、暗闇に光をもたらすことによって変化を起こすことです。弟子たちはその光によって、地域社会に知られるようになるのです。

ですから、今日においてイエスに連なる私たちの重要な役割は、周りの人々に、塩で味付けをするように、愛と希望と平和を持って奉仕し、彼ら彼女らの人生に変化をもたらし、人生を豊かにすることなのです。

本日の第二の聖句は、エルサレムからバビロンに流刑された神の民に宛てられた手紙の一部です。故郷を追われた民は、エルサレムへの「帰郷」を願っていました。彼ら彼女らが住んでいた地域は、自分たちで選んだ場所ではありませんでした。しかし、神は、彼ら彼女らに、そこに家を建てて定住し、農作物を植えて育て、地域の共同体と交わり、人々と連帯し、この地域、この街のために祈るようにと呼びかけられました。

私たちはどのようにすれば、神が私たちを遣わされた地域の共同体のことに思いを馳せることができるでしょうか？ 私たちは本当にこの地域の人々と関わりを持とうとしているのでしょうか？ 私たちはここに何を建て、何を植えるべきでしょうか？ 私は、YMCA と YWCA が地域社会と積極的に関わっている素晴らしい事例を耳にします。例えばルーマニアとモルドバの YMCA です。彼らは他の多くの YMCA/YWCA と同様に、ウクライナからの避難者に奉仕をしました。それらの YMCA は、周囲のコミュニティのニーズに応えたのです。また、ドイツ東部の農村地帯にある小さな YMCA は、その地域の多くの人々が大都市に転出していることに気づき、その地域で新しい団体を設立し、その家族や子どもたちとの関わりを始めました。そして、その活動が地域の可能性を変えていったのです。



この2つの聖書箇所は、クリスチャンとしての重要な2つの側面を私たちに思い起こさせます。第一に、私たちは塩であり、光であるようにと神に求められています。第二に、私たちは自分たちが置かれた共同体・場所で仕えることを求められています。

塩となり光となることで、私たちは地域社会に変化をもたらし、人々の幸福に貢献することができるのです。私たちは単に仕事をこなすだけでなく、人々との関係を築くことも求められています。持続可能な基盤を作り、人を育てることが大切です。このことが長期的な変化へとつながっていくのです。神が私たちを、個人として、また YMCA/YWCA の一員として、どのような状況に遣わされ、どのような変化に火をつけようとしているのか、一緒に考えてみましょう。

振り返りのポイント:

- あなたは、どの地域社会（コミュニティー）に奉仕することを期待されていますか？
- あなたの地域社会にはどのようなニーズがありますか？
- あなたが地域の生活に深く根ざすことを妨げているものはありますか？
- 今日、あなたが光をもたらすことができる人は、どこにいますか？
- 今日のあなたの人生において、イエスの光が差し込むことを切望しているのはどの部分ですか？

祝福の祈り:

親愛なる主イエス、

私たちの人生の光でいてくださることを、感謝いたします。

私たちの心をあなたの愛で満たしてくださることを、感謝いたします。

私たちに力を与え、平和をもたらしてくださることを、感謝いたします。

私たちの周りには、変化を求め、新しい可能性を求めている地域社会があります。

私たちが人々のために、地域社会のために、変化を起こすことができるように、どうか必要とされる場所に私たちを導いてください。

聖霊が私たちを導き、私たちを希望とインスピレーション、そして強さで満たしてくれますように。

アーメン。

DAY 2



IMPACTING WHOLENESS

DORI GORMAN

全人的成長を求めて



第2日 - Impacting Wholeness 全人的成長を求めて

聖書: ヨハネによる福音書 5章 1-9節 (新共同訳)

ヨハネによる福音書 5章 1-9節 (ベトザダの池で病人を癒す)

1:その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた。2: エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そこには五つの回廊があった。3:この回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。†¹ 4:彼らは、水が動くのを待っていた。それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっているか、いやされたからである。5: さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。6: イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたくないか」と言われた。7: 病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」8: イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」9: すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。

はじめに:

毎週、娘たちの小学校の校長先生から、学校内の近況について報告をいただいています。この前、校長先生は、学校のスクール・カウンセラーへの感謝についてお話をされました。「例年なら、カウンセラーは1学期に4~5グループを担当します。しかし今年は、最初の9週間だけで、カウンセラーは13グループを担当し、今日までに374の個人カウンセリングと162のグループセッションを行いました」と。私はこのことを聞いて、「子どもたちは大丈夫なのかな」と思いました。また同時に、「わたしたち大人も実のところは、心の健康問題に関しては、助けが必要な成長途中の子どもたちと同じような存在ではないか?」とも考えるに至りました。

私の子どもたちは、何か問題があると真っ先に私に知らせてくれます。子どもたちは自分の感情の原因を特定することは必ずしもできませんが、確かにいつも大きな感情を表現しています。この2年間で、より多くの子どもたちが心の健康のサポートを求めるようになったことは、私にとって驚くことではあ

¹5章4節は底本に節が欠けている個所の異本による訳文 (新共同訳聖書)



りません。でも、一方で大人はどうでしょう？ 大人は大丈夫なのでしょう？ 全人的な成長（wholeness）を実現するために、私たち大人も、この子どもたちから教訓を得て、精神的、情緒的、霊的な健康のために誰かに助けを求め始めることができないのでしょうか？

聖書の語りかけ:

エルサレムの神殿山地域のすぐ北に位置するベトザタの池は、現代の考古学者によって発掘され、今でも見ることができます。ベトザタの池は癒しの場として知られていましたが、ユダヤ人だけの特別な場所ではありませんでした。ユダヤ人だけでなく、また信仰の有無にかかわらず、人々がここを神聖な場所としていたことが遺跡からうかがえます。それは、この場所がギリシャ神話の癒しの神であるアスクレーピオスのために捧げられたとの記録があることから分かります。この池の水の癒しの仕組みについて知りたい方は、ニコラス・トマス・ライトの著書『John for Everyone』の以下の記述が参考になるでしょう。

「池の水は定期的に泡立っていました。その泡立ちの時、その池に最初に入った者が癒されると言われていました。ある人々は、この泡立つ水は天使によるものだと考えていました（今日の聖書で、このヨハネによる福音書第5章の「第4節」が欠けているのは、古代の福音書のいくつかの写本にはこの泡立つ水と癒しを説明するこの第4節があったものの、ほとんどのそれより古い写本にはこの節が無かったためである）」

残念ながら先ほどの聖句に登場する病気の男は、癒されたいと思って長い間その池にいたにもかかわらず、水に入ることができないでいました。

しかし、そこにイエスが現れ、物語は一転します。イエスはこの男を癒しただけでなく、この場所にいたすべての人を癒したことがわかります。イエスがもたらした癒しは、ある種族や集団だけに与えられたものではありません。イエスはすべての人に幸福（well-being）を与え、すべての人に癒しを与えたいと願っておられるのです。

イエスは、38年もの長きにわたって横になっていたこの病人に「起き上がりなさい」と言いながら、実に印象的な会話を投げかけています。この「起き上がりなさい（stand up）」という言葉は、新約聖書ではイエスの「復活（resurrection）」をほのめかす言葉として響いているように思います。イエスは、私たち全員が元気になり、復活を経験し、立ち上がり、人生に癒しと完全性を見出すことを切望しているのです。



この病人の苦しみを考えると、イエスの「良くなりたいか」という言葉は、とても不思議な問いかけにも思えます。スコット・リールは、その著書『Journey to Freedom（自由への旅路）』の中で次のように指摘しています。

「イエスはこの病気の男の真剣さを疑いませんでした。彼は 38 年間、池のそばに横たわっていたのですから。彼は元々健康に生まれたかっと思っていました。しかし、イエスは少し違ったことを言われました。「癒しは、あなたの人生を変える。あなたは、これからは自分で自分を支えるために仕事を見つけなければならない。あなたは、新しい生き方を学ばなければならない」。ここでイエスは、癒されるだけの理論ではなく、彼が自由を享受するためにこれから起こさなければならない具体的な道筋を説いたのです。ここから、癒しや成長にも具体的な道筋が必要であるということが分かります。」

私は、私自身の全人的成長——例えば、心の健康、精神的な生活、情緒的な成熟、あるいは体力の向上——のために一步を踏み出したいと思うことはよくありますが、実際に正しい方向に進むような一貫性のある具体的なことは何もできていません。私は、少しの間何かを試してみることはあっても、多くの場合、やがて自分にとって良いと分かっていることなのに実践するのを止めてしまいます。そうして私は元の状態に留まり、結果的に調子が悪くなってしまふことが多いのです。38 年間という長い時間ではありませんが、時にはそれくらいの間と思えるくらい長く自己嫌悪に陥ることがあります。

あなたは、あなたの人生のどの領域で「起き上がること」（stand up）が必要でしょうか？ あなたがこのような言葉を耳にするのを遮り、あなたが一步を踏み出せないでいる原因となっている物事は何でしょうか？ あなたが必要なサポートを受けるのを妨げているものはありますか？ イエスは、私たち一人ひとりの宗教的背景や精神性に関係なく、私たち全員の中に全人的成長（wholeness）をもたらすことを切望しています。すべての人がこのイエスの「良くなりたいか」という質問に答える機会を与えられています。そして、もしあなたの答えが「はい！」なら、私たちが、・精神・知性・身体の向上に向かって立ち上がり、歩むためには何が必要かについて、祈りながら考えてみましょう。



振り返りのポイント:

- 全人的な健康への一步を踏み出すために、あなたが人生で何か一つ変えられるとしたら、それは何でしょうか？
- あなたの变化を妨げている障壁は何ですか？
- もしキリストがあなたに「良くなりたいか」と尋ねたら、あなたはどうか答えるでしょうか？
- もしあなたの YMCA/YWCA が、健全なコミュニティを作るために一步を踏み出せるとしたら、それは何でしょうか？
- それを実現するために、あなたのコミュニティではどのような障害を取り除く必要がありますか？

祝福の祈り:

あなたが祈るとき、アメリカの神学者ハワード・サーマンの次の言葉を思い浮かべてみてください。

動きを止め、休息を取り、一時停止することは良いことです。活発であることには奇妙な魔力 (strange magic) があります。活動を続け、心を躍らせる多くのことに関わり続け、そして時間がどんどん過ぎていくことには、致命的な魔力 (deadly magic) が含まれています。あなたが、活発である状態を過信しすぎることは、賢明とはいえません。

一時停止のとき、休息のときには、また違った魔力 (own magic) があります.....。

.....あなたの内には完全性への要求があります。それゆえに、静寂の体験を得るとき、その要求はあなたにこのように告げます。それは、恐るべき告知です。「あなたの散らばった部分を集め、あなたの全意識を集中してそれを感じなさい。今が一体となる時です。このような神聖なる集中に達した者だけが、神のビジョンにおいて祝福されるでしょう」そして、神のビジョンがなければ、生きることの意義は失われてしまいます。

Howard Thurman (ハワード・サーマン) 著

『In the Moment of Pause, the Vision of God (停止の瞬間に、神のビジョンを)』より

さあ、心を安らげましょう (Be still)。神に集中しましょう。心を安らげましょう。

祈り：いのちの水を与えてくださる神様、私の全てをリフレッシュし、私のビジョンを整えてくださいますように。

アーメン。



創造的な活動または行動

あなたの人生に完全性をもたらすための、あなた自身の「変化の計画」を作成しましょう。より詳しい情報は、Scott Reall（スコット・リール）著作の「*Journey to Freedom (自由への旅)*」の、第 35-36 日目のページに掲載されています。

「変化の計画」 名前： _____ 日付： _____

Step 1 祈りの時間を過ごした後、現在の自分の精神、知性、身体における状態を正直に評価し、書き出してください:

Step 2 具体的な目標をそれぞれ1つずつ書いてください:

精神

知性

身体

Step 3 上記の各目標を達成するための具体的なステップを書き出してください:

精神

- 1.
- 2.
- 3.

知性

- 1.
- 2.
- 3.



身体

- 1.
- 2.
- 3.

Step 4 サポートチームを書き出してください：これらの目標について話すことができ、目標へ向かう旅路においてあなたをサポートしてくれる具体的な人々を書き出してみましょう。

Step 5 祈りながら、この言葉の後に自分の言葉をつづけて書いてみましょう。「この変化が起こるとき、私の人生は次のようになるでしょう……」

Step 6 日々の祈りを書き出し、そして日々祈りましょう。

一例として、ニーバーの祈り（Serenity Prayer）があります。

神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気を与えたまえ。

変えることのできないものについては、

それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、

変えることのできるものと、変えることのできないものとを、

識別する知恵を与えたまえ。

DAY 3



IMPACTING HOPE

NNAETO ONWUZURUMBA

希望をもたらすために



第3日: Impacting Hope 希望をもたらすために

聖書: エレミヤ書 29 章 11-13 節、マタイによる福音書 20 章 1-10, 16 節 (新共同訳)

エレミヤ書 29 章 11-13 節

11: わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。12: そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。13: わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら。

マタイによる福音書 20 章 1-10, 16 節 (「ぶどう園の労働者」のたとえ)

1: 「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。2: 主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。3: また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、4: 『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。5: それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。6: 五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、7: 彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。8: 夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。9: そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。10: 最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。…… 16: このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

はじめに

故デズモンド・ムピロ・ツツ大主教は、かつて自らを「希望の囚人」と表現しました。今日、私たちは皆、自分自身を「希望の囚人」と呼ぶ必要があるのではないのでしょうか。現在の厳しい世界情勢の中で、私たちが希望を持ち続けることは、難しいことです。けれども私たちは、希望を失ってしまった状態では、周囲に働きかけることはできません。希望とは、私たちが自分自身で作り上げるものではありません。むしろ、希望とは、私たちの生ける希望である神の中に見出すものなのです。

預言者エレミヤの言葉は、極度の逆境と深い絶望の中にいる人々への慰めと安心感を与えるメッセージです。このメッセージは、残忍な侵略とそれによる移住に苦しんでいた人々に向けられたものでした。つまり、このメッセージは、政治的、経済的、およびその他の面でアイデンティティと帰属意識を失っ



ている人々に向けられたものです。このメッセージに表れている状況は、今日の多くの国々の状況をも非常にリアルに描写しています。ウクライナの人々は、攻撃的な隣国により、長く苦しい状況に置かれています。イランは、女性とその権利を抑圧する強権的な政権のために、この原稿を書いている今まさに内乱が起きています。パキスタンの一部は洪水で破壊され、人々は絶望的な貧困状態に陥っています。エチオピアは内戦の痛手に苦しんでいます。また、ナイジェリアをはじめとする西アフリカでは、過激な原理主義者の反乱が続いています。エネルギー資源の枯渇、欧州でのインフレーション、米国での政治的・社会的な深刻な対立。中南米では極度の貧困と失業に起因する凶悪犯罪が多発し、人々はより良い生活を求めて、必ずしも歓迎されない場所への移住を余儀なくされています。アメリカでは、学校での銃乱射事件が頻繁に報道されています。世界は今、希望に乏しい状況です。しかし、ストーリーはこれで終わりではありません。

聖書のみことばと、その実践

本日の聖書箇所（エレミヤ書）において、神は、私たちが個人として、家族として、国として抱えている多くの問題を認識しておられること、そして私たちに豊かにする計画を用意されていることを語っています。神によってもたらされる希望のある未来は、たとえ苦しみの中にあっても、単に私たちが存在することや生存することを超えて、私たちが意味のある生き方ができることを約束するものです。神は、私たちに、勇気を持って明日を迎えることができると言っています。神は、私たちの前にすでに道を備えておられるのです。希望をもたらすということは、全知全能の愛に満ちた神への信仰を再確認することです。神は、「あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら」（エレミヤ書 29 章 12-13 節）と言っておられます。また、使徒パウロは、ローマの信徒への手紙 5:5 で、「希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」と述べています。

本日の聖句（マタイによる福音書）において、イエス・キリストが語った譬えは、画期的なアイデアを私たちに提示しています。このぶどう園の物語は、人は誰も——生産ができる人、できない人にかかわらず——神の前ではかけがえのない価値を持っている者だということを描いています。これは、人の価値を経済的・社会的資本で計るという、消費主義にまみれた私たちの考え方や文化とは相反するものです。神はすべての人々に、その中でも特に世界の中で相対的に生産能力が限られているとみなされる人々に希望を与えています。この神の希望は、私たちが神に愛され、大切にされていること、そして私たちは神のご計画の担い手であることを語っています。ですから、キリストに従いなさいという神の愛の招きを受け入れた瞬間に、私たちはキリストの家族に迎えられ、私たちの欠点や失敗にかかわらず、良い方向に変わっていくのです。



アフリカの民族であるイボの古い諺に「mgbe onye ji tete ura bu ututu ya」という言葉があります。直訳すると「人が目覚める時はいつでも、その人自身の朝になる」という意味です。この言葉は、人生の旅というものは時に個人的なもので孤独に見えるかもしれないことを私たちに思い起こさせます。しかし、神は私たちが究極的には繁栄することを望み、「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」ための恵みを惜しみなく与えてくださるのです。聖書における希望の土台は、私たちに対する神の言い尽くせぬほどの愛と、私たちの生活への神の賢明な統治と、人生の途中で遭遇する驚きの上に、しっかりと築かれているのです。

ぶどう園の労働者のたとえば、地主（主人）としての神の描写から始まります。神は、広大な力と資源を自由に使える地主のような存在であり、その資源を、本当に有意義な仕事を必要としている労働者のために、進んで使おうとされます。ここで地主は「何もしないで広場に立っている人々」を見たとき書かれています。希望は、人と、人が持つ大きな可能性を見ているのです。今日の聖書箇所は、私たちのコミュニティで短期間あるいは長期間の失業に苦しんでいる人々に、神があなたを見ていて、適切な時にあなたに有意義な仕事を与えてくださるといふ励ましを与えてくれます。私たちは、自分は愛されない人間だ、失業者だとささやく内なる批評家に屈してはならないのです。私たちは皆、賜物を与えられているのです。

また、この地主も、正しい報酬を支払うと約束し、人々を雇用します。希望は、神の摂理と正しい行いが隣り合わせに存在し得ることを認識しています。YMCA/YWCAの働きは「希望の神」（ローマ15章13節）に支えられており、喜びと平和によって変革をもたらすことができます。ここで働く私たちは、ケアを受ける人々への希望の伝導者として神に遣わされていることを忘れてはなりません。私たちの仕事は、人々や地域社会に希望を与えることに焦点を当ててこそ、意義のあるものになります。また、私たちは、聖書に登場する労働者たちから、時間や給料に関係なく、与えられた仕事をきちんとこなすという姿勢を学ぶことができます。この姿勢は、この物語から見出される、私たちが見習うべきものです。

振り返りのポイント

- 私たちはこの世界を、皮肉のレンズを通して見ずに、希望のレンズを通して見ることができますか？
- 私たちは希望をもって誠実に仕事をしているでしょうか。
- 希望の源を見失わないために、私たちは何をすべきなのでしょう？
- 今日、私たちが希望をもたらす妨げになっているものは何でしょうか？



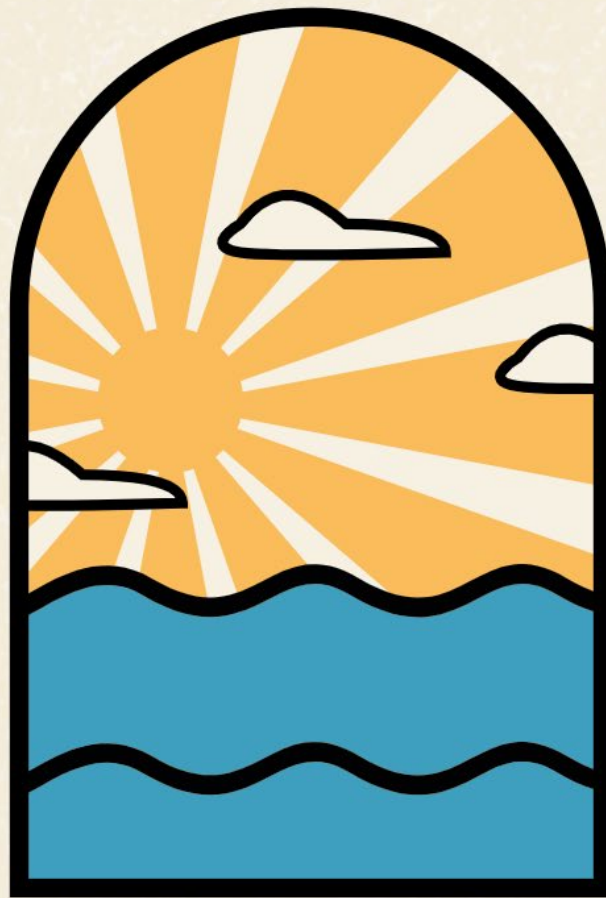
祝福の祈り

親愛なる神さま、あなたは私たちの希望であり、私たちはあなたに繋がることを選びます。私たちが日々、あなたの揺るぎない愛を心にとめることができますように。私たちは、私たちの生活の中の荒れ狂う海を鎮める力があなたにあることを十分に心に留めながら、私たちがこの極めて危険で不確かな時代にも、励みと自信を持てるように祈ります。私たちの家庭、地域、YMCA/YWCA が、あなたとの揺るぎない約束の中で、慰めと安らぎ、そして強さを見出すことができますように。私たちが常に希望を伝える者となりますように。私たちの永遠の希望の源であるイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

創造的な活動または行動

1. 希望について語られているお気に入りの聖書箇所や歌を思い浮かべ、周りの人とシェアしてみましょう。ソーシャルメディアに投稿することもできます。
2. あなたの人生において（個人的に、あるいは YMCA/YWCA において）、希望を失いかけた時期を思い出してください。そのとき、どのように神からの励ましを受け、暗黒の時を乗り越えたかを書き出してみてください。その時、あなたにとって希望の源は何でしたか、誰でしたか？それを信頼できる人と分かち合ってみましょう。
3. 一人で、または YMCA/YWCA の仲間と一緒に、あなたがろうそくに火を灯している写真を撮り、それを保管しましょう。希望は決して失われないということを思い出すために。

DAY 4



IMPACTING RESPONSIBILITY

MURIEL MONTENEGRO

責任をもって



第4日- Impacting Responsibility 責任をもって

聖書: 創世記 1 章 26, 28 節 & マタイによる福音書 6 章 9-10 節 (新共同訳)

創世記 1 章 26, 28 節

26:神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

....

28:神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

マタイによる福音書 6 章 9-10 節

9:だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、／御名が崇められますように。

10: 御国が来ますように。御心が行われますように、／天におけるように地の上にも。』

はじめに

2022年7月、世界YMCA大会では「Vision2030」を採択しました。その4つの柱の1つは、持続可能な地球を実現することです。YWCAの「#Goal2035」では、正義と平等が行き渡った世界を構築するために、若者のリーダーシップが求められていることを強調しています。また、世界YWCAはそのビジョンの中で、自由な社会と環境への配慮が促進され、持続されなければならないとしています。祈祷週4日目の今日は、地球環境への責任について振り返り、祈ります。

人類と地球への配慮は、利益によって動かされる今日の世界における、私たちの重要な責任です。国連の気候変動に関する政府間パネルは、2021年の特別報告書の中で、今後起こる1.5°Cの地球温暖化を放置すれば、地球のすべての生物に災難をもたらすと述べています。科学者たちは、大災害が起こる前に、最低でも温暖化を1.1°Cまでに抑制することを世界に訴えています。科学的にも明らかのように、今日の気候変動の危機は、洪水、熱波、火災、氷河や氷床の融解、永久凍土の不可逆的な融解、海水温の上昇、酸性化、脱酸素といった、生命を脅かす現象となって表れています。このような状況の中で、私たちは、キリスト教のステewardシップの概念（神から与えられた恵みの、忠実な思慮深い管理者であること）が、地球の劣化に対する責任を人々に負わせることに失敗していないかどうかを、今一度問



う必要があります。聖書には、スチュワードシップの概念を再構築するための、これに代わる概念はあるのでしょうか？

聖書のことば

創世記 1 章は、神が自然界と人間を創造された物語を伝えています。しかし、創世記 1 章 26-28 節を注意深く読むと、本文中に「スチュワード（管理者）」という言葉がないことが分かります。そこで使われている言葉は、ヘブライ語の動詞ラダ (*radah*) とカバシュ (*kabash*) であり、被造物に対する力を表現しています。カバシュは、束縛する、征服する、服従させる、踏みつけるという意味を持ちます。旧約聖書のエステル物語では、同じ言葉が女に「乱暴しようとする」（エステル 7:8）と使われています。この二つの強烈な、荒々しい言葉は、人間が地球を支配し、統治する「権威」を与えられているのだとして、長年にわたって使われてきたのです。

ヘブライ語でスチュワード（管理人）を意味する言葉はメルザール (*melzar*) です（ダニエル書 1:11,16）。メルザールは、預けられたものを注意深く責任を持って管理する、保護者の義務と責任を果たすものです（創世記 15:2,3）。支配と服従は、メルザールとは異なり、力、攻撃性、暴力を連想させ、使用人、保護者、受託者としての管理人の性格を否定するものです。（以前は）支配と服従をスチュワードシップ（管理人であること）と誤解して、人間中心、人間本位の聖書の読み方をしたために、人間が征服者の姿勢を取るようになってしまいました。このような人間の行為は、地質学的な時代区分において、人間が地球を破壊する時代を意味するアントロポセン（人新世）をもたらしたと言われてい

ます。

ヘブライ語のメルザール (*melzar*) の概念は、責任あるスチュワードシップ（管理人）のモデルとなるものですが、新約聖書のギリシャ語「オイコス (*oikos*)」の概念の方がより説得力があるかもしれません。

ギリシャ語のオイコス (*oikos*) は、ヘブライ語のベイイス (*bayith*) と同じ意味を持ち、例えば、家庭、人間や動物の住居を意味します。オイコスの同義語にオイコウメネ (*oikoumene*) という言葉がありますが、これは居住をする場所としての世界、すなわち居住可能な地球という、より広い意味での住居の概念を提示しています。すべての地球人は地球に住み、地球を住処としています。オイコス (*oikos*) のもう一つの同義語はオイコノモス (*oikonomos*) で、家 (*oikos*) の世話をする者、管理者、または資源を平等に分配する受託者を意味します。そして、名詞のオイコノミア (*oikonomia*) は、利用可能な資源の慎重な管理・運用をするシステムを意味します。



しかし、残念なことに、第二パウロ書簡の作家たち（Deutero-Pauline writers）は、オイコス（*oikos*）とはすべての被造物の住まいであるという広義の見方から遠ざかってしまいました。彼らはオイコスを「神の家」としての教会に限定したのです。この排他主義的な展開によって、オイコスは全地球人の住まいであるというイメージが曖昧になりました。その結果、人間と自然との調和の関係についての思慮は、端に追いやられてしまいました。また、人間は、オイコノミア（*oikonomia*）が本来持つ、神の創造した家庭の管理・運営という意味を忘れ、ビジネスと利益のためにモノを生産・消費するという限定された経済の概念に格下げしてしまいました。地球は、利益を追い求める人間の手にかかると、その人間の身体の一部と化してしまいます。地球は今、滅亡の危機に瀕しています。この1万2千年の完新世時代（Holocene）の安定していた気候が、現代の大気、地質、水文、生物圏、その他の地球システムの重大な変化によって、大きく変化をしつつあります。人間の欲望が人間中心的な活動を引き起こし、今や「人新世 Anthropocene」を形成しています。地球上のすべての生命に平等を保証するというオイコノミア（*oikonomia*）の本質が忘れ去られています。神が創造された家庭を管理する責任者としてのオイコノモス（*oikonomos*）の概念も失われています。

キリスト者は、支配と従属の概念を超えて、未来のことを見据えた責任あるスチュワードシップ（管理人）に向けて、キリスト者の倫理的姿勢を転換させうる他の聖書的パラダイム（ものの見方・考え方を根本的に規定している概念的枠組み）を確立していかなければならないのです。オイコノモス

（*oikonomos*）のもう一つのイメージはオイコドモス（*oikodomos*）で、愛の言葉と行いによって、人々の生活を築き、建て直し、啓発し、強化し、発展させるものです。オイコドモス（*oikodomos*）は人間関係を修復し、美しいものへと変化させます。これによって、人類は支配と被支配の罪から贖あがなわれるのです。これは、人類が貪欲にまみれてしまうことを抑制します。このオイコノモス

（*oikonomos*）とオイコドモス（*oikodomos*）の倫理的枠組みは、地球と人間との壊れた関係を修復するように、私たちの社会を導くかもしれません。また、この枠組みは、人類が、地球を保護し、正義と癒しのための行動を起こすことを鼓舞することができます。そしてこの枠組みは、人類がバイオフィリック（*biophilic*=生命を愛する、生命に優しいという意味のバイオと、友情や愛を意味するフィリアに由来する）倫理を実践することを可能にし、地球と地球上の生命を否定するあらゆる政治、経済、社会、文化の枠組みに抵抗することを可能にします。このスチュワードシップの概念は、幸福、完全性、繁栄、全体性を包含する「シャローム（*shalom*）」という包括的なビジョンを掲げています。このオイコノモス（*oikonomos*）とオイコドモス（*oikodomos*）というスチュワードシップの枠組みは、上記のヘブライ語のメルザール（*melzar*）の概念を統合し、地球を守り、奉仕することを推進するものです。地球に生命の息吹を吹き込むためには、人類は悔い改めなければなりません。そのためには、地に足の着いた信



仰と人格、そして献身が必要です。そうすれば、キリスト者は、神の国を地球上に実現するための行動をとることになります。

ふりかえりのポイント：

1. あなたの日々の習慣やライフスタイルを調べ、支配（カバシュ）や征服（ラダ）の考え方に基づくスチュワードシップ・モデルに加担しているかどうか考えてみましょう。
2. オイコノモス-オイコドモスというスチュワードシップの枠組みは、あなたにとって意味を持つものでしょうか？それはなぜでしょうか？
3. 責任ある積極的なスチュワード（管理者）になるために、個人として、また組織（YMCA / YWCA）として、何ができるでしょうか？

祝福の祈り

神様、この地球をお造りくださりありがとうございます。あなたがこの世界を造られたことについて、今一度私たちが真剣に思いを馳せる時をくださったことを感謝いたします。私たちが悪質で怠慢な心を持ち、地球の破壊への加担をしていることをお赦してください。私たちが、自らの生き方を変え、積極的に責任あるスチュワードになれるように、私たちの歩みを祝福してください。私たちが、真に地球の回復と癒しのために行動をとる者となり、あなたの神の国のビジョンを実現する者となりますように、私たちをお導きください。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

創造的な活動または行い：

1. 友人や家族を集めて、伐採が進んだ地域に苗木を植え、木を育てる活動を行いましょう。苗木が大きな木や森に育つまで、地域の方と一緒に世話を続けましょう。
2. 食事について考えましょう。食品は、生産に必要な二酸化炭素排出量が少ない物を選んで食べましょう。例えば、牛肉の生産においては二酸化炭素排出量が多く、深海に生息する大型の魚を捕獲する過程も二酸化炭素排出量が多いのです。捕獲時に多量の二酸化炭素を排出しない小型の遠洋魚類を食べましょう。
3. 創世記1章26-28節のスチュワードシップに関する聖書箇所について理解を深めるために、定期的に学びの時を持ちましょう。

DAY 5



IMPACTING DIGNITY

SOLOMUZI MABUZA

尊厳を求めて



第5日: Impacting Dignity 尊厳を求めて

聖書朗読 ミカ書 6章 8節、ルカによる福音書 18章 1-8節 (新共同訳)

ミカ書 6章 8節

8: 人よ、何が善であり主が何をあなたに求めておられるかは
あなたに告げられている。正義を行い、慈しみを愛しへりくだして神と共に歩むこと、これである。

ルカによる福音書 18章 1-8節 (「やもめと裁判官」のたとえ)

1: イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。2: 「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。3: ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。4: 裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。5: しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』」6: それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。7: まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。8: 言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来る時、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

はじめに

イシズール語の「Umntu ngumuntu ngabantu」（あなたがいるから私がいる）という有名な言葉をご存知の方は多いでしょう。これはしばしばウブンツ (*Ubuntu*) の概念と関連づけられ、人間同士の関係性を理解する上での基礎となってきました。もう一つ、キリスト教的な見解と類似する言葉に、南ソト語の「Motho ke Modimo」という言葉があります。この言葉は「人間は神／神聖なものである」という意味です。この表現の核心は、人の尊厳とは神そのもの、神聖なものであるという理解です。人間の尊厳を肯定し、高め、そして保護することは、さまざまな宗教に通じるテーマであり、まさに普遍的な人権の核心となるものです。

最も疎外され傷つけられている者に対する人間の尊厳の侵害は、現代の道徳的な災いです。多くの取り組みが、絶えず私たちに、あらゆる形で人間の尊厳の侵害を終わらせる必要性を思い起こさせてくれます。例えば、南アフリカの木曜日は、以前は不利な立場にあった信仰共同体であるキリスト教を信仰する女性のための、超教派の「祈りの日」としています。今日に至るまで、この慣習は絶えることなく続いています。同様に、私たちの姉妹団体である WCC (世界教会協議会) や世



界 YWCA も提唱している「#ThursdayInBlack」（木曜日には黒い服を）キャンペーンは、レイプや暴力のない世界を目指す世界的な運動です。今日、私たちは、人間の尊厳が踏みにじられている領域において、このような運動へ参画していくことが求められています。

聖書のみことば

本日の聖書箇所は、神がこの世に何を求めておられるか、そして 21 世紀における YMCA と YWCA としての私たちの役割について思い起こさせます。

預言者ミカは、神は私たちに、正義と愛と親切を実践し、創造主に対して謙虚に歩むことを求めておられることを思い起こさせます。私たちは神の言葉を伝える道具として、また器として、好むと好まざるとに関わらず、この世のあらゆる善を実現していくよう求められています。

イエスは、ミカ書に書かれていることを明らかにするために、「やもめ」のたとえを用いました。そして同時に、この祈禱週とそれ以降の日々に私たちが何をすべきかを明らかにしています。1 世紀のパレスチナでは、夫を亡くした女性はあまり多くの権利を持っていませんでした。このたとえ話の中でその女性は、神を畏れずどんな人間も尊重しない不当な裁判官としつこく付き合わなければならない状況に置かれています。やもめは、この不公平な裁判官のもとに正義を求め続けました。彼女は、無策に直面したときの粘り強さの手本となる存在です。彼女は、正義と平和の神の国をこの地にもたらすために、YMCA と YWCA がどのように行動すべきかの模範となる女性です。私たちに期待されることは、常に心を込めて祈ることだけではありません。この不公平な世界に神の秩序をもたらそうとする行動に積極的に参加することも、私たちの任務です。今日の世界では、人間の尊厳は、人々に無条件に与えられるものとはなっていません。むしろ、特に最も弱い立場の人々にとっては、積極的に求めなければならないものです。世界の YMCA と YWCA の若者は、社会から疎外されたすべての若者の権利を擁護し促進するために、その活動のためのプラットフォームを与えられなければなりません。若者たちは尊厳と尊敬をもって扱われなければなりません。聖パウロがテモテに述べたように、誰も若者を軽蔑してはいけません。

偏見や差別のない世界を実現することは可能です。平和が広がり、安定した状態が当然のこととされる世界も実現可能です。このような世界を実現するために、悪が広がる今日の社会に対して、神のご計画を進めようとする、世界の若者のたちの力を抑えてはなりません。

ふりかえりのポイント

- i. 私たちは、YMCA や YWCA の働きの中で、祈りを重要な要素として考えているでしょうか？
- ii. 私たちは日々の生活の中で、キリストを中心とし、神を畏れているでしょうか？それとも世の中の権力に屈してしまっているでしょうか？
- iii. 人間の尊厳を擁護する活動への参画を、21 世紀の私たちの働きの中のどこに位置づけますか？



- iv. 今日の私たちのエキュメニカル（超教派の協働）およびインターフェイス（異教徒間の協働）の特徴とは何でしょうか？私たちはYMCAやYWCAのように限られた団体の間で活動することに満足しているのでしょうか？
- v. 私たちYMCAとYWCAは、そのビジョンや仕事、また国際社会の中での役割を考えるにあたり、公平と平等の問題についてどのような課題が与えられているのでしょうか？そして、その課題の中で何を優先させますか？

祝福の祈り

私たちの天の神様、私たちは、私たちが善き行いをできなかったことについて、へりくだってあなたの赦しを請います。神様、私たちが隣人に愛と優しさで正義を持って接していないことを赦してください。私たちがあなたのみこころを行い、あなたの言葉に従うことができるように導いてください。この地上で闇の支配に抗って、あなたが与えられた使命と目的のための奉仕を続けるすべての人々を祝福してください。信条、性別、年齢、カースト、人種、階級、宗教、政治的所属を超えて、すべての人とともに人間の尊厳を促進し保護するというあなたの使命のために、私たちの世界的な運動に連帯を生み出してください。そして私たちをその使命のために用いてください。

集団的な活動または行動

- i. あなたの所属するYMCAまたはYWCAのビジョンについて振り返りましょう。そして所属YMCA/YWCAにおいて人間の尊厳のための運動を進めるにあたりどのような課題があるかを検討しましょう。その結果を仲間と共有し、検討の結果から浮かび上がった問題に取り組むための目標を設定しましょう。このプロセスを記録し、あなたの身近な人々や団体に働きかけるために、利用できるあらゆるソーシャル・メディアを活用してみましょう。
- ii. 「やもめと裁判官」のたとえ話をもとに、これらの人物を視覚的・芸術的に描くことができますでしょうか？同様に、人間の尊厳を損なおうとする人・ものの姿を描くことができますでしょうか？そこで描いた絵画を若者が集まる場所に設置し、人間の尊厳のための活動への参画を呼びかけましょう。
- iii. 私たちが生きている変化の激しい世界では、各自が置かれた文脈の中で、どのようにして祈りの時間を作ることができるのでしょうか？個人的またはグループでの祈りの時を持つために、私たちは、利用できるプラットフォームを使って、どのようなことを世界と共有することができるのでしょうか？私たちは祈り続けましょう。そして、世界の人々に尊厳をもたらすよう努めましょう。

DAY 6



IMPACTING UNITY

STEVE CLAY

一つとなるために



第6日- 1 Impacting Unity (一つとなるために)

聖書：歴代誌下 30 章 1-6, 10-13 節、ヨハネによる福音書 17 章 8-23 節 (新共同訳)

歴代誌下 30 章 1-6, 10-13 節 (偉大な過ぎ越しの祭り)

1:ヒゼキヤはすべてのイスラエルとユダに使者を遣わし、またエフライムとマナセには書簡を送り、エルサレムの主の神殿に来てイスラエルの神、主のために過越祭を行うように呼びかけた。2:王とエルサレムの高官とすべての会衆は協議し、第二の月に過越祭を行うことに決定した。3:それは、まだ自分を聖別した祭司の数が十分でなく、民もエルサレムに集まっていなかったため、その時に過越祭を行うことができなかったからである。4:その決定は王の目にもすべての会衆の目にも正しいと思われたので、5:彼らはそれを実行に移し、ベエル・シェバからダンに至るまですべてのイスラエルに通知を送り、皆がエルサレムに来て、イスラエルの神、主のために過越祭を行うように呼びかけた。規定どおりにその祭りを行っている者は多くなかったからである。6:急使は王と高官が託した書簡を持ってすべてのイスラエルとユダを巡り、王の命令どおりこう言った。「イスラエルの人々よ。アブラハム、イサク、イスラエルの神、主に立ち帰れ。そうすれば主は、アッシリアの王の手を免れて生き残った人々、あなたたちに帰ってくださる。

10:急使はエフライムとマナセの地を町から町へと巡り、ゼブルンまで行ったが、人々は彼らを冷笑し、嘲った。11:ただアシェル、マナセ、ゼブルンから、ある人々が謙虚になってエルサレムに来た。12:また、ユダに神の御手が働いて、人々の心が一つにされ、主の言葉に従って王と高官の命令が実行に移された。

13:第二の月に、多くの民がエルサレムに集まり、除酵祭を行った。それは極めて大きな会衆となった。

ヨハネによる福音書 17 章 18-23 節

18:わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。19:彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。20:また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。21:父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。22:あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つ



になるためです。23: わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。

はじめに

あなたは、プロジェクトチームの皆が同じ目標に向かっていない、あるいは別の隠れた目標があるようなチームに参加したことはありませんか？ その時の結果はどうでしたか？ そのチームは期待した成果を残すことはできたでしょうか？ 今日のトピックは、私たちの祈りを「一致」に向けるものです。2030年と2035年に向けた世界のYMCAとYWCAの戦略は、私たちの行動が一つになることによって実現されるでしょう。

聖書のみことば

本日の聖書箇所、ユダ王国は危機に瀕していました。戦争で周辺地域は荒廃し、住民たちはアッシリアの捕虜になりました。ヒゼキヤ王は、彼の民が団結する必要を感じていました。ヒゼキヤ王の呼びかけは、漠然とした団結を要求するものではありませんでした。今直面する問題を解決できるような変革をもたらすためには、民が自分たちを結びつけていた基盤(foundation)を思い出し、一致団結できる呼びかけが必要だったのです。

第二の聖書箇所である、ヨハネによる福音書では、非常に有名なイエスの祈りが記されています。そこでイエスはあなたと私のために祈ってくださっています。それはまるで、人間の弱さ、エゴや対立というものが、始まったばかりの運動に対してどのように悪影響を及ぼし、運動が確立される前に引き裂かれてしまうかを理解し、未来を見通しているように思えます。イエスは、自分に従う人々が一致するように、そしてこの一致が世界に対する力強いしるしとなり、神の変わらぬ愛のしるしとなるように祈ったのです。

では、イエスによる一致への呼びかけに「私たち」はどのように応えればよいのでしょうか？

みことばの実践について

航空券が安かったので、参加する会議のために1日早く香港に到着したことがあります。この国際会議には、私は所属する組織の評議員代表として参加する機会に恵まれました。私は、YMCA/YWCAの「C=Christian」が世界のさまざまな国でどのように反映されているかを理解したいと強く思っていました。私はこの団体で6年間活動してきたものの、あまりよく理解ができていなかったからです。（その日は）コロンビアとチリから来た熱心なカトリックのボランティアのグループと一緒に、一晚コテージに宿泊したのですが、彼らはラテンアメリカでの運動における画期的な宣教の展開について説明をしてくれました。私は「福音派のプロテスタント」として育ったの



で、カトリックのコミュニティーの中でこのような運動に繋がるスピリチュアルな活動が湧き上がっているという状況に、非常に衝撃を受けました！

それから数年が経つにつれて、私の先入観や偏見はどんどん削ぎ落とされていきました。私は、世界中のYMCA・YWCAファミリーの友情、神の恵み、そして信仰に支えられて、様々な宗派や伝統を受け入れることに挑戦してきました。スイスのハスリバーで行われたウクライナ正教会の礼拝では深い霊性を体験し、デンマークのオーフスではエキュメニカル・ミサに参加し、アメリカのシルバーベイのチャペルでは神の預言を受けるような経験をしました。他にも、別の信仰を持つ人たちや信仰を持たない人たちを、どの程度歓迎し受け入れることができるのかについても考えさせられる機会がありました。

世界YMCAの「Vision2030」と世界YWCAの「#Goal 2035」が、期待されている成果を得るためには、世界規模でのメンバーの一致と団結が必要です。

YWCAもYMCAも、その基盤はイエス・キリストへの信仰にあります。これは、ある会員にとっては単なる過去のきっかけに過ぎず、また別の会員にとっては、生きた現実であると表現されるでしょう。このように考えると、世界合同祈禱週に参加することを選択した私たちは、どちらかというど後者のほうに惹かれていると考えてよいかもしれません。では、どのようにして私たちは、信仰における難しい緊張関係を乗り越え、イエスが私たちに求めている一致を目指せばよいのでしょうか。

21世紀におけるYMCAとYWCAの力は、これらの運動が生み出されたキリスト教基盤そのものを隠したり取り除いたりすることにより得られるものではありません。それどころか、全ての人を純粋に歓迎し大切にするというキリスト教の、開かれた、包容力(inclusive)のある共同体を明確に創造していくことによって、大きな力を得られるのです。イエス・キリストへの信仰を、自信をもって表現し、多様な社会の中での自らの位置づけを認識し、あらゆるものを歓迎し奉仕するという寛容でオープンな姿勢を持つことは、分裂と分断の世界において大きな意味を持つことです。

「一致(unity)」は受け身でなされるものではなく、積極的に選ばれるべきものです。大きな相違点や対立に直面したときにこそ、一致が選択されるべきです。例えば、YMCAの「パリ基準」は1855年に採択されましたが、その背景には、奴隷制度や信仰における価値観について大きな意見の相違がありました。けれども私たちの先人たちは、政治的、神学的な立場に恐れを覚えるかもしれませんが、信仰の違いにもかかわらず、あるいは違いそれ自体を通して、歴代の人々は結束を達成できたのです。おそらく聖霊は、そのような違いを利用して、恵み、思いやり、そして自分を越えた他者への愛を育んできたのでしょう。

イエスの宣教は包容(inclusion)を特徴としていますが、それは無理にまとめるものではなく、他者を、異なる視点を持つ人々を、迫害する人々をも愛する包容力です。そしておそらく最も重要



なことは、それは全能の神からの、そして全能の神への愛を信じることによる包容力であることです。

目的のための一致は、全会一致を意味するものではありません。ヒゼキヤ王は国民の祭典に民衆全員を招待しました。それは、不確実な時代の中で未来に備えるという共同使命のもとに、人々を再結束させるためでした。ある者たちは使者を蔑んだり嘲笑したりしましたが、しかしその王の招待に応えた大集団には心の一致がありました。この神の前の目的の一致は、後のアッシリアのエルサレム包囲に耐えるために重要だったことが、後に証明されました。

結束の中に恵み、思いやり、愛が含まれていなければ、現在および最近の植民地主義、アパルトヘイト、先住民族の抑圧、戦争といった破壊的な政治的遺産を克服することはできません。私たちはキリスト教信仰が、イエスが弟子たちに求めた道から逸脱するような搾取的行為を正当化するために、時として用いてきた乱暴な方法を解消する必要があります。

恵み、思いやり、そして愛がなければ、現在の社会学的・神学的観点における世界的なさまざまな違いは、私たちの運動により形成されてきた信仰に基づく結束を、傷つけたり歪めたりすることになるでしょう。

ですから、今日、私たちの運動を生み出した信仰の火を再び灯し、結束のための行動を阻むであろう私たちの根深い偏見に向き合しましょう。そして、その偏見が、イエスが祈ったように、彼に従う者にふさわしい愛に置き替わるように、イエスに願おうではありませんか。

振り返りのポイント

1. 今日のトピックの中で、読んでいて自らにとって課題になりそうだと感じたことはありますか？
そのことは、あなたの他人に対する見方にどのような影響を及ぼしますか？
2. あなたは同僚の「良いところ」を探しますか？それとも「悪いところ」を探してしまいますか？
3. あなたは、仕える人々に良い影響を与えられるように、あなたの性格のどの部分が変わるように祈りますか？
4. あなたのYWCA/YMCAの中で神結束を育むために、あなたはどのようなことを段階的に実践していきますか？
5. あなたには修復しなければならない人間関係はありますか？ ごめんなさいと言うべき人はいますか？ 過去のあなたのどのような言動について許しを請う必要がありますか？



平和を求める祈り

わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。

憎しみのあるところに愛を

いさかいのあるところにゆるしを

分裂のあるところに一致を

疑惑のあるところに信仰を

誤っているところに真理を

絶望のあるところに希望を

闇に光を

悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください

慰められるよりは慰めることを

理解されるよりは理解することを

愛されるよりは愛することを、わたしが求めますように

わたしたちは与えるから受け

ゆるすからゆるされ

自分を捨てて死に

永遠の命をいただくのですから。

（「聖フランシスコの祈り」より）

創造的な活動

- 人間関係やチーム内で、結束力の欠如を感じることを思い浮かべてみましょう。
- 関係する各人について、その人の5つのポジティブな性格を5枚のポストイット・ノートに書き出してみましょう。
- これらのメモをあなたの部屋の周りに貼り付けてみましょう。
- 一日のうち、そのメモが目についたときに、その人のために祈り、その人の良いところを神様に感謝しましょう。

DAY 7



A COLLECTIVE WORSHIP SERVICE

JENS CHRISTIAN KIRK

礼拝



第7日 – A Collective Worship Service

礼拝 一火をともす働きを支えていくために

以下の内容は、今年の世界祈祷週間の期間中または終了後に、各 YMCA/YWCA が、今年の合同祈祷週のテーマに基づいた礼拝を行うためのガイドとして提供されるものです。

00:00 歓迎と紹介

司式者は参加者を歓迎し、状況に応じて適切に、礼拝について簡単な紹介します。

00:03 開会の祈り

司式者：創造主なる神と主イエス・キリストの恵みと慈しみと平和があなた方と共にありますように。

全員：そしてまた、あなたと共にありますように。

司式者：今日という日は、主が造られた日です。

全員：私たちは、今日という日に、喜びをもって感謝しましょう。

00:04 歌 – ‘Beauty from brokenness’ (壊れたものの美しさ) – Graham Kendrick

この選曲は、礼拝のテーマに合うような内容の提案です。別の曲を使いたい場合もあるでしょう。その場合は、別の曲を選んでください。代替りの選曲は、<http://www.ymca.int/week-of-prayer> にいくつか掲載されています。

00:08 聖書—4人の朗読者で以下の4つの聖書箇所を読みます。異なる属性の参加者のグループから

4人の朗読者を選んでください。その日の聖書日課を代わりに用いることもできます。

朗読 1: 創世記 1 章 26, 28 節

朗読 2: ミカ書 6 章 8 節

朗読 3: ヨハネによる福音書 17 章 21 節

朗読 4: ルカによる福音書 19 章 1-8 節

00:12 祈り—希望、インパクト、そして平和のために

司式者：すべての祝福の源である、創造主なる神さま、

全員：あなたは私たちと共におられます。

司式者：私たちの兄弟姉妹であり、私たちの希望の道の導き手である主イエス、



全員：私たちが、行動を起こし、責任を持ち、そして正義を実現できるように導いてください。

司式者：私たちが不正や絶望に直面し傷いた時に慰めをくださる精霊の働き、

全員：私たちの頭に、喜びの油と、あなたによる平和を注いでください。アーメン。

00:14 私たちが見る希望（礼拝としての創作芸術）

このセクションでは、礼拝を盛り上げるために創造的な芸術的活動を行います。ここでは、私たちの世界にある「目に見える希望」に焦点を当てたモンタージュ（映像や写真）、振り返り、詩、ダンスなどを使用してください。そのためには事前準備が必要です。

00:20 説教（メッセージ）

地域の YMCA/YWCA の指導者や聖職者に依頼し、今年のテーマについて、先に朗読した聖書箇所の中から一つまたは複数に触れつつ話してもらいます。

00:30 国々のための祈り – 讚美の壁

このセッションの間は、歌詞の無い音楽を BGM として流してください。そして、板または黒板（ホワイトボード）、紙とそれを板に固定するもの（ポストイットでも可）、を用意します。

礼拝の司式者は、このセッションを次の言葉で始めます。

「これから短い沈黙の時間に入り、今日の礼拝を振り返ります。

皆さんがよろしければ、私がリードします。

心を静め、目を閉じ、しばらく静かな時を過ごしましょう。（待つ）

身の周りがある、あなたの気を散らせるものに気づき、それを認めましょう。（待つ）

この礼拝の間に見聞きしたことを思い起こしましょう。（待つ）

朗読された聖書箇所について思い起こしましょう。

説教について思い起こしましょう。」

「神様が、あなたの人生において、どのように希望に火をつけてくださったかを紙（ポストイット）に書き留めましょう。もしくは、私たちが現在直面する争いや不正義が神によって変えられて、これから生まれることを望んでいる平和と正義について、前もって神に感謝する言葉を書き留めることもできます。例えば、『信仰において、私たちは_____の争いに平和的解決をもたらしてくださる神に感謝します』、『信仰において、私たちは_____における_____を終わらせてくださる神に感謝します』といった具合に書き留めることができるでしょう。



そして、皆さんが書いた紙（ポストイット）を板に貼り、皆で分かち合いましょう。」

00:37 歌 - 「生まれてきたすべての人のために」 (For everyone born) - Shirley Erena Murray と Daniel Charles Damon による

この選曲は、礼拝のテーマに合うような讃美歌の提案です。別の曲を使用することも可能です。その場合は、「正義と平和に火をつける」ことをテーマにした曲を選んでください。代替曲の選択肢は、<http://www.ymca.int/week-of-prayer> に掲載されています。

00:42 主の祈り

全員：天の父よ

み名があがめられますように。

み国が来ますように。

みこころが天で行われるように 地上でも行われますように。

わたしたちに今日も この日のかてをお与え下さい。

わたしたちに罪を犯した者を ゆるしましたから、

わたしたちの犯した罪をおゆるし下さい。

わたしたちを誘惑から導き出して 悪からお救い下さい。

み国も力も栄光も とこしえにあなたのものだからです。

アーメン。

(日本キリスト教協議会統一訳)

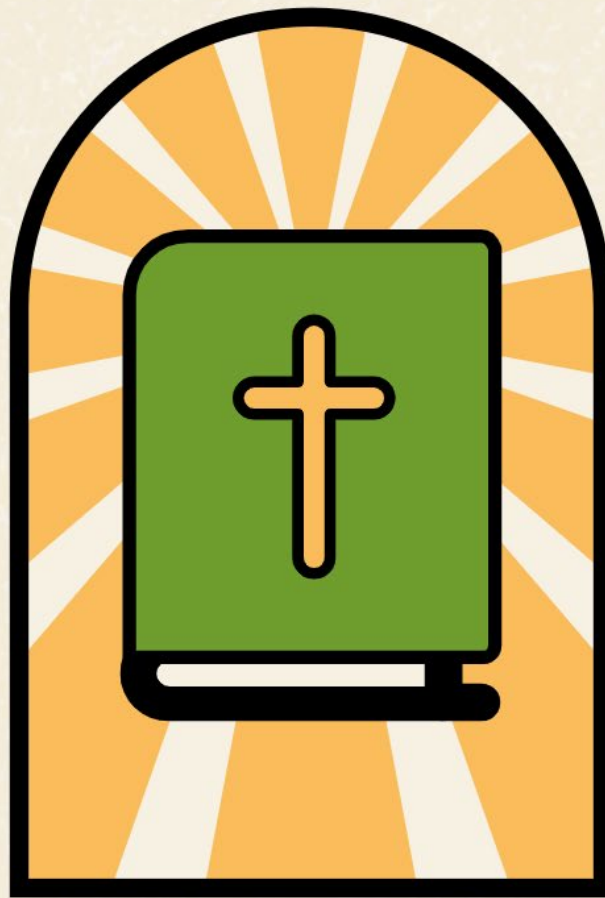
00:44 祝祷 - 民数記 6 章 24-26 節

司式者：主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主があなたに平安を賜るように。

全員：アーメン

00:45 礼拝の終わり

2023



BIBLE READING PLAN

聖書日課



2022年12月

1日(木) イザヤ 6:1-13
2日(金) イザヤ 7:1-9
3日(土) イザヤ 7:10-25
4日(日) 詩編 44
5日(月) イザヤ 8:1-15
6日(火) イザヤ 8:16-23
7日(水) イザヤ 9:1-6
8日(木) イザヤ 11:1-10
9日(金) イザヤ 12:1-6
10日(土) イザヤ 14:1-23
11日(日) 詩編 33
12日(月) イザヤ 24:1-23
13日(火) イザヤ 25:1-9
14日(水) イザヤ 26:1-6
15日(木) イザヤ 26:7-19
16日(金) イザヤ 28:14-22
17日(土) イザヤ 29:17-24
18日(日) 詩編 58
19日(月) イザヤ 30:1-17
20日(火) イザヤ 32:1-20
21日(水) イザヤ 33:17-24
22日(木) イザヤ 35:1-10
23日(金) マタイ 1:1-17
24日(土) マタイ 1:18-25
25日(日) マタイ 2:1-12
26日(月) マタイ 2:13-23
27日(火) マタイ 3:1-12
28日(水) マタイ 3:13-17
29日(木) マタイ 4:1-11
30日(金) マタイ 4:12-17
31日(土) 詩編 121

2023年1月

1日(日) 詩篇 8
2日(月) 創世記 1:1-13
3日(火) 創世記 1:14-25
4日(水) 創世記 1:26-2:4a
5日(木) 創世記 2:4b-17
6日(金) 詩篇 72
7日(土) 創世記 2:18-25
8日(日) 詩篇 71
9日(月) 創世記 3:1-13
10日(火) 創世記 3:14-24
11日(水) 創世記 4:1-16
12日(木) 創世記 4:17-26
13日(金) 創世記 6:1-4
14日(土) 創世記 6:5-22
15日(日) 詩篇 105:1-15
16日(月) 創世記 7:1-16

17日(火) 創世記 7:17-24
18日(水) 創世記 8:1-12
19日(木) 創世記 8:13-22
20日(金) 創世記 9:1-17
21日(土) 創世記 9:18-28
22日(日) 詩篇 105:16-45
23日(月) 創世記 11:1-9
24日(火) 創世記 11:27-12:9
25日(水) 創世記 12:10-20
26日(木) 創世記 13:1-18
27日(金) 創世記 14:1-16
28日(土) 創世記 14:17-24
29日(日) 詩篇 40
30日(月) 創世記 15:1-21
31日(火) 創世記 16:1-16

2023年2月

1日(水) 創世記 17:1-14
2日(木) 創世記 17:15-27
3日(金) 創世記 18:1-15
4日(土) 創世記 18:16-33
5日(日) 詩篇 62
6日(月) 創世記 19:1-14
7日(火) 創世記 19:15-29
8日(水) 創世記 19:30-38
9日(木) 創世記 21:1-21
10日(金) 創世記 22:1-19
11日(土) 創世記 23:1-20
12日(日) 詩篇 61
13日(月) ローマ 1:1-7
14日(火) ローマ 1:8-15
15日(水) ローマ 1:16-17
16日(木) ローマ 1:18-32
17日(金) ローマ 2:1-16
18日(土) ローマ 2:17-29
19日(日) 詩篇 60
20日(月) ローマ 3:1-8
21日(火) ローマ 3:9-20
22日(水) ローマ 3:21-26
23日(木) ローマ 3:27-31
24日(金) ローマ 4:1-12
25日(土) ローマ 4:13-25
26日(日) 詩篇 64
27日(月) ローマ 5:1-5
28日(火) ローマ 5:6-11

2023年3月

1日(水) ローマ 5:12-21
2日(木) ローマ 6:1-11
3日(金) ローマ 6:12-23



4日(土) ローマ7:1-6
5日(日) 詩篇25
6日(月) ローマ7:7-13
7日(火) ローマ7:14-25
8日(水) ローマ8:1-11
9日(木) ローマ8:12-17
10日(金) ローマ8:18-25
11日(土) ローマ8:26-30
12日(日) 詩篇10
13日(月) ローマ8:31-39
14日(火) ローマ9:1-5
15日(水) ローマ9:6-13
16日(木) ローマ9:14-29
17日(金) ローマ9:30-10,4
18日(土) ローマ10:5-15
19日(日) 詩篇84
20日(月) ローマ10:16-21
21日(火) ローマ11:1-10
22日(水) ローマ11:11-16
23日(木) ローマ11:17-24
24日(金) ローマ11:25-32
25日(土) ローマ11:33-36
26日(日) 詩篇69:1-16
27日(月) マタイ26:1-16
28日(火) マタイ26:17-30
29日(水) マタイ26:31-35
30日(木) マタイ26:36-46
31日(金) マタイ26:47-56

2023年4月

1日(土) マタイ26:57-68
2日(日) 詩篇69:17-37
3日(月) マタイ26:69-75
4日(火) マタイ27:1-14
5日(水) マタイ27:15-30
6日(木) マタイ27:31-44
7日(金) マタイ27:45-56
8日(土) マタイ27:57-66
9日(日) マタイ28:1-10
10日(月) マタイ28:11-20
11日(火) ローマ12:1-8
12日(水) ローマ12:9-16
13日(木) ローマ12:17-21
14日(金) ローマ13:1-7
15日(土) ローマ13:8-14
16日(日) 詩篇116
17日(月) ローマ14:1-12
18日(火) ローマ14:13-23
19日(水) ローマ15:1-6
20日(木) ローマ15:7-13
21日(金) ローマ15:14-21
22日(土) ローマ15:,22-33
23日(日) 詩篇23
24日(月) ローマ16:1-16

25日(火) ローマ16:17-27
26日(水) 箴言1:1-7
27日(木) 箴言1:8-19
28日(金) 箴言1:20-33
29日(土) 箴言2:1-22
30日(日) 詩篇100

2023年5月

1日(月) 箴言3:1-12
2日(火) 箴言3:13-26
3日(水) 箴言3:27-35
4日(木) 箴言4:10-19
5日(金) 箴言4:20-27
6日(土) 箴言5:1-23
7日(日) 詩篇108
8日(月) 箴言6:6-11
9日(火) 箴言6:12-19
10日(水) 箴言7:1-27
11日(木) 箴言8:1-21
12日(金) 箴言8:22-36
13日(土) 箴言9:1-18
14日(日) 詩篇111
15日(月) ペリピ1:1-11
16日(火) ペリピ1:12-18a
17日(水) ペリピ1:18b-26
18日(木) 詩篇110
19日(金) ペリピ1:27-2,4
20日(土) ペリピ2:5-11
21日(日) 詩篇27
22日(月) ペリピ2:12-18
23日(火) ペリピ2:19-30
24日(水) ペリピ3:1-11
25日(木) ペリピ3:12-21
26日(金) ペリピ4:,1-9
27日(土) ペリピ4:10-23
28日(日) 詩篇118:1-14
29日(月) 詩篇118:15-29
30日(火) 創世記24:1-28
31日(水) 創世記24:29-49

2023年6月

1日(木) 創世記24:50-67
2日(金) 創世記25:19-34
3日(土) 創世記27:1-29
4日(日) 詩篇113
5日(月) 創世記27:30-40
6日(火) 創世記27:41-28,9
7日(水) 創世記28:10-22
8日(木) 創世記29:1-14a
9日(金) 創世記29:14b-30
10日(土) 創世記31:1-7,14-32
11日(日) 詩篇34
12日(月) 創世記31:33-54
13日(火) 創世記32:1-22



14日(水) 創世記 32:23-33
15日(木) 創世記 33:1-20
16日(金) 創世記 37:1-11
17日(土) 創世記 37:12-36
18日(日) 詩篇 4
19日(月) 創世記 39:1-23
20日(火) 創世記 40:1-23
21日(水) 創世記 41:1-36
22日(木) 創世記 41:37-57
23日(金) 創世記 42:1-28
24日(土) 創世記 42:29-38
25日(日) 詩篇 103
26日(月) 創世記 43:1-14
27日(火) 創世記 43:15-34
28日(水) 創世記 44:1-34
29日(木) 創世記 45:1-24
30日(金) 創世記 45:25-46:7

2023年7月

1日(土) 創世記 46:28-34
2日(日) 詩篇 77
3日(月) 創世記 47:1-12
4日(火) 創世記 47:27-31
5日(水) 創世記 48:1-22
6日(木) 創世記 49:1-28
7日(金) 創世記 49:29-50:14
8日(土) 創世記 50:15-26
9日(日) 詩篇 101
10日(月) マタイ 4:18-22
11日(火) マタイ 4:23-25
12日(水) マタイ 5:1-12
13日(木) マタイ 5:13-20
14日(金) マタイ 5:21-26
15日(土) マタイ 5:27-32
16日(日) 詩篇 82
17日(月) マタイ 5:33-37
18日(火) マタイ 5:38-48
19日(水) マタイ 6:1-4
20日(木) マタイ 6:5-15
21日(金) マタイ 6:16-18
22日(土) マタイ 6:19-23
23日(日) 詩篇 106:1-23
24日(月) マタイ 6:24-34
25日(火) マタイ 7:1-6
26日(水) マタイ 7:7-11
27日(木) マタイ 7:12-23
28日(金) マタイ 7:24-29
29日(土) マタイ 8:1-4
30日(日) 詩篇 106:24-48
31日(月) マタイ 8:5-13

2023年8月

1日(火) マタイ 8:14-17
2日(水) マタイ 8:18-22

3日(木) マタイ 8:23-27
4日(金) マタイ 8:28-34
5日(土) マタイ 9:1-8
6日(日) 詩篇 63
7日(月) マタイ 9:9-13
8日(火) マタイ 9:14-17
9日(水) マタイ 9:18-26
10日(木) マタイ 9:27-34
11日(金) マタイ 9:35-10:4
12日(土) マタイ 10:5-15
13日(日) 詩篇 78:1-31
14日(月) マタイ 10:16-26a
15日(火) マタイ 10:26b-33
16日(水) マタイ 10:34-39
17日(木) マタイ 10:40-42
18日(金) マタイ 11:1-19
19日(土) マタイ 11:20-24
20日(日) 詩篇 78:32-55
21日(月) マタイ 11:25-30
22日(火) マタイ 12:1-14
23日(水) マタイ 12:15-21
24日(木) マタイ 12:22-37
25日(金) マタイ 12:38-45
26日(土) マタイ 12:46-50
27日(日) 詩篇 78:56-72
28日(月) マタイ 13:1-9.
18:-23
29日(火) マタイ 3:10-17
30日(水) マタイ 13:24-30,
36-43
31日(木) マタイ 13:31-35

2023年9月

1日(金) マタイ 13:44-46
2日(土) マタイ 13:47-52
3日(日) 詩篇 112
4日(月) マタイ 13:53-58
5日(火) マタイ 14:1-12
6日(水) マタイ 14:13-21
7日(木) マタイ 14:22-36
8日(金) マタイ 15:1-20
9日(土) マタイ 15:21-28
10日(日) 詩篇 16
11日(月) マタイ 15:29-39
12日(火) マタイ 16:1-12
13日(水) マタイ 16:13-23
14日(木) マタイ 16:24-28
15日(金) マタイ 17:1-13
16日(土) マタイ 17:14-21
17日(日) 詩篇 79
18日(月) マタイ 17:22-27
19日(火) マタイ 18:1-9
20日(水) マタイ 18:10-14
21日(木) マタイ 18:15-20



22日(金) マタイ 18:21-35
23日(土) マタイ 19:1-12
24日(日) 詩篇 114
25日(月) マタイ 19:13-15
26日(火) マタイ 19:16-26
27日(水) マタイ 19:27-30
28日(木) マタイ 20:1-16
29日(金) マタイ 20:17-28
30日(土) マタイ 20:29-34

2023年10月

1日(日) 詩篇 104
2日(月) マタイ 21:1-11
3日(火) マタイ 21:12-17
4日(水) マタイ 21:18-22
5日(木) マタイ 21:23-27
6日(金) マタイ 21:28-32
7日(土) マタイ 21:33-46
8日(日) 詩篇 119:1-8
9日(月) マタイ 22:1-14
10日(火) マタイ 22:15-22
11日(水) マタイ 22:23-33
12日(木) マタイ 22:34-46
13日(金) マタイ 23:1-22
14日(土) マタイ 23:23-39
15日(日) 詩篇 119:9-16
16日(月) ヤコブ 1:1-12
17日(火) ヤコブ 1:13-18
18日(水) ヤコブ 1:19-27
19日(木) ヤコブ 2:1-13
20日(金) ヤコブ 2:14-26
21日(土) ヤコブ 3:1-12
22日(日) 詩篇 119:17-24
23日(月) ヤコブ 3:13-18
24日(火) ヤコブ 4:1-12
25日(水) ヤコブ 4:13-17
26日(木) ヤコブ 5:1-6
27日(金) ヤコブ 5:7-12
28日(土) ヤコブ 5:13-20
29日(日) 詩篇 19
30日(月) ヨブ 1:1-12
31日(火) ヨブ 1:13-22

2023年11月

1日(水) ヨブ 2:1-13
2日(木) ヨブ 3:1-26
3日(金) ヨブ 4:1-21
4日(土) ヨブ 5:17-27
5日(日) 詩篇 22:1-22
6日(月) ヨブ 6:1,10:24-30
7日(火) ヨブ 7:7-21
8日(水) ヨブ 8:1-22
9日(木) ヨブ 9:1-15,32-35
10日(金) ヨブ 11:1-20

11日(土) ヨブ 12:1-6.
14:1-12
12日(日) 詩篇 22:23-32
13日(月) ヨブ 19:21-29
14日(火) ヨブ 31:16-40
15日(水) ヨブ 40:1-5
16日(木) ヨブ 40:6-32
17日(金) ヨブ 42:1-6
18日(土) ヨブ 42:7-17
19日(日) 詩篇 70
20日(月) ユダ 1-16
21日(火) ユダ 17-25
22日(水) マタイ 24:1-14
23日(木) マタイ 24:15-28
24日(金) マタイ 24:29-31
25日(土) マタイ 24:32-44
26日(日) 詩篇 126
27日(月) マタイ 24:45-51
28日(火) マタイ 25:1-13
29日(水) マタイ 25:14-30
30日(木) マタイ 25:31-46

2023年12月

1日(金) イザヤ 40:1-11
2日(土) イザヤ 40:12-31
3日(日) 詩篇 117
4日(月) イザヤ 41:8-20
5日(火) イザヤ 42:1-9
6日(水) イザヤ 43:1-7
7日(木) イザヤ 43:8-13
8日(金) イザヤ 43:14-28
9日(土) イザヤ 44:1-5
10日(日) 詩篇 80
11日(月) イザヤ 44:6-20
12日(火) イザヤ 44:21-28
13日(水) イザヤ 45:1-8
14日(木) イザヤ 45:9-17
15日(金) イザヤ 45:18-25
16日(土) イザヤ 46:1-13
17日(日) 詩篇 85
18日(月) イザヤ 49:1-6
19日(火) イザヤ 49:7-17
20日(水) イザヤ 50:4-11
21日(木) イザヤ 51:1-8
22日(金) イザヤ 51:9-16
23日(土) イザヤ 52:1-12
24日(日) 詩篇 115
25日(月) ルカ 1:46-55
26日(火) ルカ 2:29-32
27日(水) イザヤ 52:13-53:5
28日(木) イザヤ 53:6-12
29日(金) イザヤ 54:1-10
30日(土) イザヤ 55:1-5
31日(日) イザヤ 55:6-13

世界 YMCA/YWCA 合同祈祷週（日本語版）

2022 年 11 月 4 日発行

訳 者 伊藤剛士 YMCA 翻訳協力 山田公平

発行者 田口 努

発行所 公益財団法人 日本 YMCA 同盟

〒16-0003 東京都新宿区四谷本塩町 2 番 11 号

電話 (03)5367-6640

E-mail info@japanymca.org URL <https://ymcajapan.org/>



Chemin de Mouille-Galand 1, 1214 Vernier
Geneva– Switzerland

www.ymca.int

Twitter & Instagram: @WorldYMCA

Facebook: /ymcas



WorldYWCA

L'Ancienne-Route 16, 1218 Le Grand-Saconnex
Geneva– Switzerland

www.worldywca.org

Twitter & Instagram: @worldywca

Facebook: /worldywca

This publication may be redistributed non-commercially in any media, unchanged and in whole with credit given to World YMCA and World YWCA. 2022